東洋大学図書館ニュース

KOΣMOΣ

1980 秋 (No. 51)

特集・私の
すすめる一冊の本…1
工学部分館より……4
シリーズ読書論・
私の読書法……5
白山より……5
所蔵白書一覧(白山)…6
朝霞分館より……8
館内だより……8

特集 私のすすめる一冊の本

一塵を見つけし空や秋の晴　　高浜虚子

今回は“シリーズ・私のすすめる一冊の本”を学生の方にも依頼し，特集として組んでみました。秋の夜長，一冊の本との出会いとなれば幸いです。（文末の記号は白山の請求記号）

松野安男訳
E・ネーゲル著「**科学の構造—科学的説明の論理の諸問題—**」
明治図書　1969

松　野　安　男
（文学部教授）

近頃，本が多すぎて，良書の選択が大変むづかしい。娯楽のための読書なら，面白ければ読み，面白くなければ読まなければよいのだが，理解するのに相当の努力を要するような学問の専門書では，そうはゆかない。表題は立派で魅力的だが，読んでみると，実は，自明の理の実証的再確認だったり，すでに陳腐なある立場への当り障りない同調であったり，主観的好悪の押し付けであったり，誤訳だらけの訳書だったりで，がっかりすることが少くない。また，何度読んでも，いくら考えても，分からないので，いろいろ調べてみると，その著者や訳者自身が珍紛漢だったことが明らかになる，というようなことだってある。こういう学問まがいや学問もどきに惑わされて，時間や努力や研究費を浪費したり，間違った学問観をいだいて勉強がつまらなくなったりしないように，学問とは何かということについて，できるだけはっきりした考えをもっていることが望ましい。とりわけ，大学に入って，もはや教科書というような権威にすがってはいられなくなり，自主的に本を選び，研究を進めてゆかなければならなくなった新入生たちは，納得のゆく学問観を渇望しているのではないか，と思う。

とはいえ，絶対に間違いのない唯一の学問観があるわけではない。研究領域が異なれば，学問観も異なるだろう。同じ領域においても異なった学問観が成り立ち，さまざまの立場からさまざまの研究が試みられているだろう。研究が進むにつれて，学問観も変ってゆくだろう。それでも，上に述べたような理由から，学問とは何かについて，何の考えもなしに済ますわけにはゆかない。そこで，間違いがはっきりしたら直せばよいというくらいのつもりでも，できるだけはっきりした仮説的学問観があった方がよいということになる。

こういう必要から，ぼく自身が一所懸命に読み，だんだん理解できるようになり，厳密に論理を辿って精読したら，ぼくにとっては全く未知の実験についての著者の記述の小さな間違いにも気づくようになり，じわじわと面白くなり，他の本を読んでいても，しばしば思い出すようになり，ぼくの学問観に深い影響を残している本がある。それは，Ernest Nagel, The Structure of Science——Problems in the Logic of Scientific Explanation——, Harcourt, Brace & World, Inc., New York & Burlingame, 1961である。この本は，科学は，単なる経

験の記述ではなく，説明の体系である，という立場に立つ。だが，説明の体系にはさまざまの形があることを寛容に認めて，そのそれぞれにおいて事実の記述と実験的法則と理論とがどんな関係にあるかを解明している。しかも，それを，一般論として述べているだけでなく，古典力学や幾何学や量子論などから有機体論的生物学そしてさらに社会科学一般から歴史学にまで及ぶ広い範囲にわたって具体的に例証し，解説している。

もちろん，この本は英語の原書で読んだ方がよい。だが，どうしても日本語で読みたいという人には，仕方がないから，ぼくの翻訳を紹介しておこう。ぼくは，12年も前に，この本を訳して，「一般編」「自然科学編」「社会科学編」の三冊に分けて，明治図書出版から出した。自分の訳書を推薦することは決して厚かましいことではないと思う。本当に良い本だと思ったから翻訳したのだし，まだそんなに古くなってはいないと思うからだ。ただ，一つだけ，小さな活字で，言いたくないことを言っておかなければならない。実は，著者の名前の発音を間違えて，ナーゲルと書いてしまったのだ。

皆がネーゲルと呼び，哲学事典にもネーゲルと書いてあることはよく知っていたのだけれど，英語で書かれたものに発音記号の付されているものがなかなか見つからなかった。ところが，偶然，何年のか忘れたが，アメリカン・フーズ・フーに，このE・ネーゲルの前に同じ綴りの弁護士のネーゲル氏があって，その横に nagel と付されているのが目に入った。そこで，魔が差したのか，てっきりナーゲルにちがいない，と思い込んでしまったのである。

そして，本が印刷されてしまった直後，ネーゲルと個人的に親しいある先生から，ネーゲルが自分ではネーゲルと言っている，ということを知らされたのである。だが，これは重大な間違いではない。最近，新聞や放送で，アメリカの大統領候補の名前だって言い変えられたではないか。それによって重大な事件が起こったということは聞かない。

(301：NE)

特集 私のすすめる一冊の本

荒木茂雄等編
「関口存男の生涯と業績」
三修社 1975

石井 孝
(電気工学科4年)

このかくも強烈な本に出会ったのは今から丁度一年位前に友人と話をしていたときのことであった。その友人は私よりかなり年上であるが教育大独文科出身の哲学にかなり傾倒している論客である。

その時もお互いに興味のあるテーマについて4～5時間話が続いていた。ふと話の内容が語学や学問のことに移り彼自身の勉学の姿勢について尋ねたときに紹介されたのがこの本「関口存男の生涯と業績」であった。

私の友人はほんとうによく勉強をする人でこの関口氏の手による大著「冠詞」全三冊を読破し，一冊がランダムハウス二分冊のものと同じくらいの厚さ，また単語征服のためになんとドイツ語の辞書を片っぱしから書き写して覚えたそうである。ここまで書けばもうおわかりの方も多いと思います。故関口存男先生は日本のドイツ語教育を語る際に関口文法を抜きにしては語れないというほどの大語学者なのです。

さてこの「関口存男の業績と生涯」では語学者としての面は勿論芸術家としての氏も描かれていて氏独特の哲学が見られ関口存男という一人の男の強烈な生きざまを見せつけられます。

目次をみるにつれてわかってきました。私の友人はこの本の中の啓蒙的な箇所，確かにみるものをして語学に限らず全てのものに挑戦してやろうとの果敢な意気込みを湧かすような，所に触れそれこそ寝食を忘れて勉強したんだということが。

少し目次を紹介してみると，「わたしはどういう風にして独逸語をやってきたか／語学をやる覚悟／くそ勉強について／遅読の賛」などなど。この他にも氏の芸術家としての面を述べ伝えている箇所があり読んでみて啓蒙され，笑い，そして涙して最後の一頁を閉じました。今では勿論私の愛蔵書棚の中の一冊となって大切にされている本です。

最後に氏のゲーテのエピグラムの抄訳を載せて

氏の人となりをわかっていただけたらと思います。まさに警句どおりの氏であるように思います。

『子供の時は意地っ張りで，青年時代は生意気で，壮年時代はやってやってやりまくり，老いては飄きんな変テコ爺さん，死んだらお墓にコウ書いて頂ける，即ち「これなん寔(まこと)に人間にてぞありける』ゲーテ，関口存男訳

(840.2：ＡＳ)

特集

私のすすめる一冊の本

村治能就訳
アリストテレス著
「デ・アニマ」
岩波書店　1968

川　添　昭　司
(大学院哲学専攻)

留年が，決定的になった時，自分の怠惰さを嘆けばいいものを，あの時はある一冊の本――論文といった方が正しいかもしれないが――をまさしく呪った。しかし，考えてみれば，最初から自分の怠惰さを嘆くような者は，留年などするはずがない。ある意味では肩身の狭かったその一年間，私にとって唯一残されたことはと言えば，「禍を転じて福となす」という一語しかなく，また，それしかなかった。それゆえ，卒業論文のテキストであったアリストテレスの「デ・アニマ」(「魂について」)と一般的に呼ばれる本（論文）をなにがなんでも理解してやるぞという意欲によって，もう一度，自分自身というものを試してみたかった。

「魂」あるいは「霊魂」というと，オカルト的，また物語りめいているように思えるが，あえていえば，アリストテレスらの古代人にとって今日の「精神」という言葉に当るものが，この「魂」――プシュケー――であり，また，このプシュケーという言葉は，心理学の原語になるものである。

この「魂について」は，アリストテレスのもう一つの著作の「形而上学」に比べれば，邦訳でも百二十頁たらずのものであり，一見，その内容は，生理学的，また自然学的であるように思えるが，感覚，想像力，観念連合，表象と観念関係および知識の経験的起源について経験論者が主張するすべては，起源的に，この「魂について」から引きだされるといっても過言ではないと思う。また，中世の有名な神学者，トマス・アクイナスは，この「魂について」を神学的に解釈して，霊魂論というものは，神学の予備学であり，形而上学の基礎学であるとみなしていたと言われているほどである。

この「魂について」の内容紹介は，哲学・神学・心理学に興味のある御方は，一度読んでみてくださいという言葉でもって略させていただきたいと思いますが，将来・学生時代に，そして，いま，愛読書がありますかと問われたならば，私は，アリストラレスの「デ・アニマ」と答えるでしょうし，また一冊の本との出会いによって救われたと大袈裟であるがそう答えるかもしれない。

(131.4：Ａ：76―6)

浜田義一郎著
「川柳・狂歌」
教育社　1977

高　橋　　昇
(国文学科４年)

昨年履習しました授業に川柳の実作と鑑賞の時間が設けられていたこともありまして，私は川柳に関する本を何冊か読みました。その中で最後まで気軽に読め役立ったのは，浜田義一郎著『川柳・狂歌』(教育社歴史新書)です。

歴史新書という性質上，この本は歴史の流れに沿い，比較的平易な句と歌をもって江戸時代の川柳と狂歌を解説しています。しかし，出典の句や歌は広範囲にわたり，読者に川柳狂歌の生命というべき「うがち」や「パロディ」を十分に理解させてくれます。川柳といいますと，俳句などよりも理解しやすいように思われがちですが，『誹風柳多留』などを読みますと，風俗や習慣などの違いもありまして，難解な句も多数あります。また，江戸狂歌は武士や町人の文芸といわれますが，古典文学を礎にしているため，理解するにあたりましては相当の知識がなくてはなりません。所載の川柳狂歌を一部紹介してみます。

わらんじをはくと二タ足ふんでみる　柳多留
孝行のしたい時分に親はなし　柳多留
筒井づついつも虱はあり原や
はいにけらしなちと見ざるまに　元の木綱
蛤にはしをしっかとはさまれて
鳴たちかぬる秋の夕くれ　宿屋飯盛

柳多留の二句は共に有名なものです。「孝行の……」の句は，今日でもしばしば耳にしますが，江戸時代の作という古さを感じさせません。また，木綱と飯盛の歌は，周知のように『伊勢物語』井筒の段の男の詠歌と西行の三夕の歌のパロディです。

本書は川柳や狂歌の基礎知識が得られるだけでなく，江戸文化の側面を理解することができ，下手な小説よりも読んでいて楽しめます。川柳や狂歌の入門書として，あるいは勉強で疲れた頭をほぐすのに最適ではないでしょうか。

(911.4：HG)

特集 私のすすめる一冊の本

川端康成著
「掌の小説」
新潮社　1969

間宮久美子
(短大日本文学科2年)

掌ですくいとれそうな，そんな小説の集りである。総数百二十七編のうち，その大半は，大正末期から昭和の初期に書かれたものであり，その後「山の音」「千羽鶴」時代に，また，「眠れる美女」「古都」の時代にと，作者の年輪を刻みこむよう長い期間をかけて描かれてきた作品である。

川端康成は，自ら「多くの文学者が若い頃に詩を書くが，私は詩の代わりに掌の小説を書いたのであったろう」といい，「若い日の詩の精神はかなり生きていると思う」と選集のあとがきに書きながらも，その後，「私の歩みはまちがっていた」と，作品に対して否定的になっている。しかし，若い時の作品というものは，その頃でなければ描けない光る所もあるのではないだろうか。

「バッタと鈴虫」「男と女と荷車」というような，少年少女のあどけなさ。「指環」「夏の靴」「お信地蔵」などにみられる少女の妖しさ。「神の骨」「朝の爪」「金銭の道」などでは，女の奥深い所の一面をみるようであり，また，幻想的な「竜宮の乙姫」「不死」や，「霊柩車」「心中」などのように不気味さの漂う作品もある。「女」「雪隠成仏」は，作品の中でも異質な感じがして興味深いし，「神います」「十七歳」には，言葉の響きの美しさがある。夢を作品にした「火に行く彼女」「鋸と出産」などは，意外性を感じる所があり，そして，老いをむかえる静かな作品「白馬」「雪」には，淋しさが包まれているようである。

このように，それぞれ作品独自の小宇宙をもっているので，読み進むたびに，ちょうど，むすんだ掌をゆっくりと開いて，あらわれたものをみつけた時のように驚きや感慨にめぐまれることであろう。

(913.6：KY—2：4—6)

工学部分館より

＜夏休み貸出調査—その1　部門別—＞

今年の夏休みには，どんな部門が，数多く貸出されたかを，大よそ調べてみました。第1位は，(分類408) 自然科学叢書で，講談社刊，ブルーバックスでした。この本は，我々が，身近に興味深い問題，事柄，例えば医学，宇宙・地球関係，物理，数学関係と，特に工学部の学生には，尚更，興味深く思われる為でしょうか。又，小型で携帯に便利，読み易い点などからか77冊と数多く貸出されました。次に2位は，電子計算機械のソフトウェア，情報工学に関する部門 (分類418.6) ですが，73冊も貸出されてます。3位，電子管回路及び作用，(分類549.3) 57冊。4位，電気回路 (分類541.1) 28冊。5位，電気機械及び器具 (分類542) 23冊。6位，世界文学全集 (分類908)，22冊。特にこの部門は，長期休暇中には，大いに読んで頂きたい所です。

＜—その2　1人当りの冊数—＞

工学部では，長期休暇中には，より多くの人に，巾広く読んで頂く為，貸出冊数を無制限にしております。そこで，1人でどの位，貸出されたかを調べた所，専門書，一般的な教養書も含めて，1位，16冊。2位，12冊。3位，11冊でした。ここ3～4年前に，1人で50数冊借りた人もおりましたが，今年は，予想していたより，少なかった様です。ただ冊数ばかり多く借りても，実際に活用しなければ意味がありませんから，むしろ少く借りて熟読しているのでしょう。

シリーズ読書論

私の読書法

島田悦子
（経済学部教授）

我々大学で学ぶものにとって，読書法というのは関心を持たざるをえないテーマであろう。私もそのような内容の文章があると，必ず読んでみる。そしていろいろな方法があることを知るが，実行の段になると余りに時間がかかるものや手間がかかるものは長続きせず，結局私なりにできる範囲で読書している。

大学を卒業したばかりの頃，恩師から教えられた本の読み方は，今でも心に強く焼きついている。それは本を読む時にはメモをとりながら読め，ということである。慢然と読み流しては，後に何も残らない。その後，私もノートにメモをとりながら読むようにしているが，これはなかなか時間がかかるので，読む本全部についてする訳にはいかない。

その次にもっと簡単で時間もかからないのは，本に書きこみをすることである。これは本を汚すので非常にいやがる人もいるし，私も本当の所，美的感覚からいえば好きではない。だが本は勉強のためにあるのだと考えて，必要な場合にはあえて汚すことにしている。しかしなるべく鉛筆を使う。なお当然のことであるが，図書館の本や，友人等に借りた本を少しでも汚したり，傷つけるようなことは，絶対にしてはならない。

どのような本を選択するのかということも，大切な問題である。私の場合は，次第に自分の研究テーマを中心にする傾向が強くなっている。我々研究者はもちろん自分の研究分野に関する本を読まなければならないが，これと関連のある異なる分野の本にも関心が広がっていく。例えば現代ギリシャ経済について調べたいと思う。そうすると次第に経済だけではなく，その文化，人間，歴史等にも興味を抱くようになる。

若い時には，まだ特定の専門分野をはっきりと持っている訳ではないし，関心も広く分散しており，何を読んだらよいのかよく分らないような時もある。そのような場合には，古典あるいは評価の確立していると思われるものを，手当りしだいにたくさん読み進んでみるのも一つの方法かもしれない。必ずそれらの本から重要なものを吸収して，精神生活を豊かにすることができるに違いない。

白山より

Hoved 図書館を訪れて

今年の夏，私は，デンマークの首都コペンハーゲンで一番大きな公共図書館である Hoved 図書館を訪れた。大きなビルの1階から4階が図書館になっていた。1・2階は，大きな窓がついた明るい雰囲気の閲覧室，3階は，本の整理をするための事務室，そして4階は，専門図書館員（参考係）のための事務室で，1人1部屋のりっぱな造りだった。一番，私が面白いと思ったのは，2階の一角の閲覧机全部に，イヤホンが取り付けられていたことであった。それは，本を読みながら，あるいは，勉強をしながらレコードも自由に聴くことができるようにと，取り付けられているのだそうである。そして若い人にとっても人気があるとのことだった。日本でも，ちょっと前に「ながら族」という言葉が流行したが，この傾向は国際的なものなんだな，と思った。ただ，日本ではとかく批判の的になっていた「ながら族」が，こちらでは逆に，歓迎されているような感じさえする程の気の配り方だ。きっと，市民全体の利用を対象にした公共図書館だからできるアプローチなのだろう。“利用者の要求に合った図書館作り”に努力している様子がありありとわかった。本当に，市民と図書館が密着しているんだなと思った。図書館の歴史が，日本よりはるかに古いヨーロッパ。そんなヨーロッパの図書館だけあって，自分なりに学んだことがとても多かった。

（内田可奈恵・図書課）

所蔵白書一覧（白山）

白書は，政府が政治，経済，社会の実態や施策の現状を国民に知らせるために，公表する報告書。イギリス政府の公式報告書の表紙が白いので，ホワイト・ペーパーと呼ばれたことからきている。くわしい定義は，後にかかげる文献をご覧下さい。以下にかかげたリストは，政府の正式な白書以外に民間で白書という書名で出されたものも含む。

- 政府の正式な白書には※印を付した。
- 白山の図書館で継続受入しているもののみ。
- 配列は請求記号順
- 昭和55年9月末現在

書名	編著者	発行所	所蔵	請求記号	備考
図書館白書	日本図書館協会	日本図書館協会	1972＋	010.21：N：2	
※公務員白書	人事院	大蔵省印刷局	S54＋	317.3：J：2	
※警察白書	警察庁	〃	〃49＋	317.7：K—7	S51欠
※海上保安白書	海上保安庁	〃	〃54＋	317.77：K	
※消防白書	消防庁	〃	〃42＋	317.79：S	
※わが外交の近況	外務省	〃	〃32＋	319.1：G：2	「外交青書」
※世界経済白書	経済企画庁	〃	1960＋	332：K—3	一部閉架
国民の経済白書	平和経済計画会議経済白書委員会	日本評論社	S37＋	332.1‥H—4	42～45，49，50欠
※経済白書	経済企画庁	大蔵省印刷局	S22/25＋	332.1：K—3	一部閉架
図説経済白書	経済企画庁調査局	至誠堂	S50＋	332.1：K—13：4	S36アリ
※国土利用白書	国土庁	大蔵省印刷局	S51＋	332.98：K—3	
経済協力の現状と問題点	通商産業省通商政策局	通商産業調査会	1958＋	333.8：T	「経済協力白書」'64～68.72.73.75欠
国民の独占白書	平和経済計画会議	お茶の水書房	1977＋	335.27：H	
公正取引委員会年次報告	公正取引委員会	大蔵省印刷局	S38＋	335.27：K—2	「独占白書」
※中小企業白書	中小企業庁	〃	S38＋	335.35：C：2	
図でみる中小企業白書	〃	同友館	S54＋	335.35：C：5	
※地方財政白書	自治省	大蔵省印刷局	S41＋	349.21：J—2	S42，43，48欠
※国民生活白書	経済企画庁	〃	S37＋	365.4：K	
国民の生活と意識の動向	経済企画庁国民生活調査課	〃	S53＋	365.5：K—6	
※労働白書	労働省	日本労働協会	S36＋	366.021：R	S28，29アリ
※婦人労働の実情	労働省婦人少年局	大蔵省印刷局	S51＋	366.35：R：5	S41アリ
婦人白書	日本婦人団体連合会	草土文化	1977＋	367.21：F	
犯罪白書	法務省法務総合研究所	大蔵省印刷局	S38＋	369.12：H	
※防災白書	国土庁	大蔵省印刷局	S47＋	369.3：K	
子ども白書	日本子どもを守る会	草土文化	1974＋	369.4：N—2	
※青少年白書	総理府青少年対策本部	大蔵省印刷局	S31＋	369.4：S	一部閉架

書　　名	編　著　者	発　行　所	所蔵	請求記号	備　考
保育白書	全国保育団体合同研究集会実行委員会	草土文化	1978＋	369.4：Z	
※教育白書	文部省	大蔵省印刷局	S35＋	372.1：M：5	欠アリ
わが国の学術	文部省学術局	日本学術振興会	S50＋	377.7：M—2	「学術白書」
精神薄弱者問題白書	全日本特殊教育研究連盟他	日本文化科学者	1973＋	378.6：S—3	
※日本の防衛	防衛庁	大蔵省印刷局	S51＋	391：B—2	「防衛白書」
※厚生白書	厚生省	〃	S31＋	498.1：K	
※科学技術白書	科学技術庁	〃	S39＋	507：K	欠アリ
※建設白書	建設白書	〃	S38＋	513.9：K	欠アリ一部閉架
電源開発の概要	通商産業省公益事業局	奥村印刷	S43＋	517.8：T	S28，38アリ
※環境白書	環境庁	大蔵省印刷局	S45＋	519.5：K—6	「公害白書」の改題
※原子力白書	原子力委員会	〃	S42＋	533.9：G—3	紛失，欠，アリ
コンピューター白書	日本情報処理開発協会	コンピュータエージ社	1976＋	549.92：N—2	1971アリ
繊維白書		矢野経済研究所	1972＋	586.021：S	欠アリ
食品産業白書		〃	1979＋	588：S—2	
過疎対策の現況	国土庁地方振興局過疎対策室	過疎地域問題調査会	S51＋	601.1：K—6	欠アリ
世界農業白書	国連食糧農業機関	国際食糧農業協会	1973＋	612：K	
※図説農業白書	農林統計協会	農林統計協会	S47＋	612.1：N—4：2	S48は農林省編
図説林業白書	〃	〃	S47＋	650.21：N—2	
※林業白書	林野庁	日本林業協会	S48＋	650.21：R：2	欠アリ
※図説漁業白書	農林統計協会	農林統計協会	S46＋	660.21：N—2	S48は水産庁編
婦人服産業白書		矢野経済研究所	1977＋	670.5：F	
※通商白書	通商産業省	大蔵省印刷局	S26＋	678.21：T	一部閉架
海外市場白書	日本貿易振興会	日本貿易振興会	1966＋	678.91：N—2：2	欠アリ
※交通安全白書	総理府	大蔵省印刷局	S47＋	681.3：S：2	欠アリ
※運輸白書	運輸省	〃	S42＋	682.1：U	「航空白書」「海運白書」を吸収
※観光白書	総理府	〃	S40＋	688.21：S	欠アリ
※通信白書	郵政省	〃	S48＋	692.1：Y：7	
〜〜白書について書いてある本〜〜					
政府刊行物資料案内	国立国会図書館	専門図書館協議会		027.2：K—4：3	
情報源ハンドブック	片野憲二	ビジネス教育出版社	S51	027.2：KK	
政府刊行物概説	黒木　努	帝国地方行政学会	S47	027.2：KT	
白書の概要	大蔵省印刷局		S44＋	027.2：O	
日本の参考図書解説総覧	日本図書館協会		1980	028：N：3	
参考図書の選び方	日本図書館協会出版委員会	日本図書館協会	1979	028：N—5	
資料経済白書25年	経済企画庁調査局	日本経済新聞社	S47	332.1：K—13：5	

朝霞分館より

1　職員の目からちょっと一言

入館の際には，バック等は必ずロッカーに収めましょう。ドアは開けたら閉めて，開けっぱなしになっていたら閉めて下さいませんか。当館は冷暖房完備，コート類は脱ぎましょう。帽子も同じです。ゲタ履き，飲食物の持ち込み等ももちろん御法度，閲覧机に腰をかけている人が時にはいます。机に対して失礼ですね。また机に顔を伏せて寝ている人がいますが，大きなイビキをかくなど以外，他の人に迷惑がかからなければ大目にみましょう。しかし，椅子を並べて寝るのは困ります。図書館は一人で勉強する孤独な場所ですから，友との相談や話をするのはやめましょう。そして最後に，退室の際には，椅子を机に納めて行くことを実行してみませんか。閉館時皆さんがいなくなったあとは壮観ですよというよりは見苦しいものです。「ちょっと一言」が沢山，小言めいた事になってしまいましたが，小さな事でも守ってほしいマナーや規則があります。これらを注意し合ってより良い環境で勉学，読書が出来るようにしようではありませんか。

2　利用者の皆さんよりの寄贈本

社会学部図書館学専攻2年生有志が昨年の白山祭に古本市を開いた売上げの純益金で下記の図書を購入し当分館へ寄贈して下さいました。

日本の参考図書解説総覧，国立国会図書館三十年史，同（資料編），アメリカ小図書館のシステム，中小都市における公共図書館の運営，現代の図書館，図書館法成立史資料，図書館社会学，図書館の自由と検閲，図書館の自由に関する宣言，“人間の自由”を求めて，市民社会と図書館の歩み，図書館学序説，図書館の社会学的基盤，レファレンスサービスの発達，国立国会図書館の課題，母親のための図書館，図書館づくり運動入門　以上18冊　なお，昨年も図書館学専攻の現在3年生有志から古本市売上げ純益金により寄贈をうけました。

館内だより（6/10〜10/9）

〜会　議〜

私立大学図書館協会：東地区役員関係（6/9，6/18，6/20，7/23，9/21）：総大会（7/24〜26）

日本図書館協会大学部役員会（6/13，8/15）

国公私立大学図書館協力委員会機関誌編集委員会（6/25，8/28小島）

大学図書館国際連絡委員会役員会（9/9）

仏教図書館協会総会（6/27米山）

図書館運営委員会（6/25）

白山連絡会（6/25，8/26）

〜研究分科会〜

相互協力（6/17，7/7村田），分類（6/18，7/16，9/17日野・佐藤），逐次刊行物（6/20，7/18，9/19島村・河田），書誌学（6/21，7/19，9/27山内），理工学（6/25伊藤），図書館サービス（7/18，9/24藤井），資料組織（9/22井田），音楽資料（9/26矢野）

〜その他の研修〜

マークソン氏講演会（6/17小島），川崎市さいわい図書館見学（7/17），図書館館内研修（9/13），筑波大学図書館見学（9/16工学部館員）

大学図書館研究集会（9/18，19山内・大和田・崎村），私立短大図書館担当者研修会（9/29〜10/2生野・直井），私立大学図書館協会東地区研究部会（6/18山内・江沢・藤野・小谷・生野・小笠原，10/8〜9山内・日野・内田）

〜催しもの〜

白山映写会（第三の男6/25）

朝霞視聴覚アワー（TVコンサート6/26，7/17，16mm，7/10）

白山展示（人名の探し方6/16〜7/12，新着画集7/14〜9/16，文学賞受賞作品展（9/25〜11/9）

〜その他〜

図書の一部を9号館の書庫へ移動（10/5白山）

訂正　前号 No. 50　p. 7. Ⅱ－1　52年度工学部学生数 3511—— 3531

編　集　後　記

スポーツ・食欲・芸術そして読書の秋と昔から言われている月並みな言葉だが，その秋にふさわしい特集にしようと編集会議はすったもんだ。やっと出来ました。　Y生

東洋大学図書館ニュース　KOΣMOΣ　1980　秋（No. 51）　1980年11月1日発行　編集：図書館ニュース編集委員会，発行人：野村順一，発行所：東洋大学図書館　東京都文京区白山5丁目28番20号 Tel.(945) 7314番